

新潟大学人文・法・経済学部同窓会会津支部

会津支部だより (第十三号)

令和六年四月一日発行

支部長挨拶



坂内 清一

昭和50年法学部 卒

同窓生の皆様には、益々お元気で御過ごしのことと、お慶び申し上げます。

2020年1月から猛威を振るっていたコロナが、昨年春、5類に変更され、6月17日、4年ぶりに会津支部の総会、懇親会がホテルニューパレスで開かれました。

参加者は来賓を含め23名と、地元会津で活躍されているチーム獅(レオ)のメンバーと関係者9名の、合わせて32名でした。

議案審議終了後は、チーム獅の演舞を鑑賞しました。チーム獅は、地元の小、中、高校生で構成され、沖縄発祥の現代版組踊りをオリジナルシナリオで、戦国時代、会津91万石に移封された蒲生氏郷をモデルとした演舞劇を演じています。チーム名の(レオ)は蒲生氏郷の洗礼名に由来しています。

チーム獅の迫真の演舞で大変盛り上がりました。来年度の会津支部総会への参加を、心よりお待ちしております。

会津支部だより

第13号

令和6年4月1日

編集発行

新潟大学
人文・法・経済学部
同窓会会津支部

(発行人) 坂内清一
(事務局)

会津若松市川原町2-26

☎ 090-2026-8442

zkramh@bd6.so-net.ne.jp

(鈴木伸康宅)

事務局だより

昨年は、若手会も4年ぶりに開催いたしました。初めて会津支部行事に参加された方々に、たくさんのご投稿をいただきました。どうぞ最後までお読みください。どうぞお願い申し上げます。



令和5年度の総会の様子
チーム獅(レオ)のみなさんと一緒に
感動に身も心も震えました

令和6年度 会津支部総会のご案内

日時：6月15日(土) 11時

場所：ホテルニューパレス

会津若松市中町2-78

シリーズ

随想

同窓会「砂山会」について

森川 慎一

昭和59年法学部法学科卒

早いもので、大学を卒業してからちょうど四十年が過ぎた。

元来、帰属意識が希薄な私は、小中・高校・大学ともそれぞれの同窓会に熱心ではなかったが、昨年、会津支部総会に出席させていただいた。現在、私がお手伝いをしている経済団体のご縁で、事務局長の鈴木伸康さんにお会いする機会に恵まれたことが契機である。

さらに今回は、支部だよりの原稿ということ、この四十年のなかで、唯一、大学との関わりとも言える勤務時代の同窓会について書きたいと思う。

卒業後に勤務した会津若松市役所には新潟大学の同窓会があった。先輩から誘われ、参加した「砂山会」は、私が7人目のメンバーであったと記憶している。当時、市役所には、会員数が百名に及ぼうとする某有名私大の同窓会も複数あり、一部に派閥的な動きもある中で、我が砂山会は少人数の家族的な集まりであり、活動内容も通常の懇親会に加え、長岡の花火大会の旅行計画など、アットホームな雰囲気集まりであった。

毎年、少しずつ会員は増え、活動も年一回程度の集まりではあったが、メンバー同士の交流も活発で、何かにつけ頼りになる先輩、同僚、後輩たちであった。時は流れて、私が退職時には五十名を超える大所帯となっていたが、いわゆる派閥的な団体ではなく、

緩やかなつながりの居心地のよい集まりであった。願わくば、今後もこうした性格を維持して会員の心の拠り所となるような集まりであることを勝手に期待している。

今後の新潟大学人文・法・経済学部同窓会会津支部のますますのご発展を心よりご祈念申し上げます。

随想

馬術部との出会い

小林 敦

平成4年法学部卒



高校時代は演劇部に所属していた反動か、大学では運動部に興味を持った。新大ならではと興味を抱き夕刻向かったのは、人文棟と農学部棟の間の小道を下っていった先にある馬術部の厩舎。短時間だが初めての乗馬体験に気持ちは昂り、馬の手入れの後、先輩部員に夕食に連れていってもらった。

夕食後は厩舎に戻り、併設した居室でプチ歓迎会。深酒の末に寝落ちし居室で翌朝を迎えた。五時過ぎ、馬房清掃と朝練のため部員が集まり出す。頭痛がひどいが、居室に寝転がっているわけにもいかず手伝いに起きる。こんな形で馬術部に入室することになる。

国立大学の馬術部には、自馬を連れて入学するセレブなど皆無。活動原資の馬・お金・指導者など全てを関係者の協力を得ながら自分たちで確保する。大学で初めて馬に乗る学生が、無償か安く譲り受けた馬で練習する。直前まで競走馬だった馬は、自分たちで乗馬用に調教する。障碍も飛べるようにする。先輩以外の指導者は新潟市近傍に住む馬術部OB。

新潟競馬場の乗馬センターで合宿をお願いできるときは、乗馬センターの指導員にも見ていた。



最難題はお金。飼料や寝蓐、馬運車のメンテナンス、遠征等にかかる費用は大学からの補助だけでは賄えないので、部員は部費のため新潟競馬場でアルバイトをする。夏開催中に競走馬を直接触る仕事もある。

一例は、レース前に規定に沿った蹄鉄を着用しているか検査するため、左後脚を上げさせ蹄の裏を中央競馬会の職員に見せる仕事。気合が入りまくる状態の競走馬に、しかも強力な後脚に触れるこの仕事が一番こわい。レース後、馬の眼に入った土や芝を洗い流す仕事もある。眼の病気になるようにするため。馬の大きな瞳や温もり、障碍を飛越する爽快感、部員同士の人間関係といった思い出の中で競馬場でのアルバイトが最も印象に残っている。自分の生活費のためにやっていた家庭教師のアルバイトとは全く違う。

因みに私は会津若松出身。幼少から馬肉は好物だが、乗馬に親しんでいた期間は食するのを控えた。

随想

30代からの新習慣

角田 祥子

平成19年人文学部卒

私の現在の本業は、「発掘調査員」。遺跡を調査する現場の、いわゆる「親方」です。人文学部で考古

学を専攻していた私は、なかなか専門職の採用にありつけない20代を過ごし、30歳を過ぎてから現在の職場で働き始めました。

発掘調査というイメージするのは、ハケを使って丁寧に出土品を取り上げる。そんな光景かもしれませんが。しかし、現実ではそのような作業をする場面はほんの一握り。実際は、重たい測量機材を運ぶ、スコップで土を掘る、土嚢を投げるなど、優雅な光景とは程遠いものです。猛暑の中でも、親方が真っ先に倒れていてはお話になりません。発掘現場を指揮する立場の人間に、最も必要なものは何でしょうか。知識？教養？いいえ。パワーとスタミナです。※個人の見解です。

元々スポーツとは縁遠く、30歳を過ぎてから本格的に体力づくりを考え始めた私は、とにかく歩くことを始めました。片道30分かけて、通勤時に歩く。夏場の暑い時期は、早起きして早朝の河川敷を一時間かけて歩く。スポーツが苦手でも、歩くことは意外と苦になりません。あえて音楽も聞かず、速いテンポで足を動かすと、心拍数が上がり、思考が整理されていきます。地道な運動習慣を身に着けたおかげで、昨年のような酷暑の中でも、現場でダウンすることなく、毎日元気に動き回っています。ここでランニングや登山に目覚めるといったドラマティックな展開にならないところも、自分らしくて良いなと感じています。

最近では、お洒落なシューズよりもウォーキング用のスニーカーが目が行ってしまいます。春に向けて新しい靴を新調しようかな。なんて考えると、また楽しい気分になりますね。



随想

最近の日曜日の楽しみ

高須 未希

平成21年人文学部法学科卒

徒然なるままに、ひぐらしパソコンに向かひて心
にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書か
むと思ふ。

日曜日の夜：NHK大河ドラマ『光る君へ』ど
ハマリしております。

今年の大河の主役は『源氏物語』の作者「紫式部」
です。

「紫式部やります！」と発表があつた時には「平安
貴族文化と言うことは、画面めちやくちや豪華で見
応えありそうだな」と、普段大河ドラマを視聴して
いない私でも見てみようかな？と思える題材でした。

さらに、紫式部に吉高由里子、清少納言にフー
ストサマーウイカとびつたりな配役が発表されたた
きには楽しみで楽しみで、2023年のお正月に「今
日から大河だ！」とルンルンしながらテレビを付
けて「：紫式部じゃないの？松本潤？？家康？？」
と一年間違えるくらいに前のめりに楽しみにしてお
りました。

いざ始まった2024年『光る君へ』

私が面白いと思っている点は2つあります。

一つ目は「まひろ（紫式部）視点で描かれる女御
たちと、藤原道長視点で描かれる権力争い」という、
一粒で二度おいしい構造になっているところだす。

日本史の授業で、「撰閣政治」と「その時代の生
活や文化」は知識として学びましたが、全く別個の
ものとして認識していたのが、この二重視点により

「確かにその時代
に起きていたこ
と」として楽し
めます。

二つ目は「作
中に出てくる短
歌や漢詩が平安
時代よろしく、いとをかし。」な点です。

小道具として短歌や漢詩が登場しますが、放送直
後にX（旧Twitter）では平安文化有識者有志皆様
がこぞって「あの歌の元ネタはもしかしたらあれか
もしれない」と考察を巡らしてあれやこれや盛り
上がっております。その考察を読み「これってもし
かして：そういう、コト！？」と、アハ体験がで
きたときには一粒で二度おいしい仕組みになってい
ます。高校時代、もつとちゃんと古文の授業起きて
いるんだった：

『光る君へ』、噛めば噛むほど味の出るドラマです。



随想

大学時代の経験と今の仕事

南波 美咲

平成31年理学部卒



同窓生の皆さま、初め
まして。南波美咲と申し
ます。人文学部でも法学
部でも経済学部でもなく、
理学部を卒業しております。
ご縁があり、3年ぶ
りに開催されました「若
手会」に参加させていた

だき、今回の会津支部だよりへ掲載する随想文を書
かせていただくことになりました。

私は現在、公務員として働いており、今年度から
昨年度までの業務とは違う業務につきましました。年度
当初はわからないことだらけで、同僚や先輩職員に
できるだけ迷惑をかけまいという想いで、現在の業務
について学び、わからないことは質問し、の繰り返し
でした。現在では、問い合わせにも対応できるように
なり、資格取得や新しいスキルの習得へと勉強をして
おります。

大学時代の私は、勉学の傍らアルバイトにいそし
んでおりました。アルバイト先では、お客様対応や
資料作成等をしていました。特に資料作成について
は、マニュアルの作成を任せられたこともあり、その
経験は現在の業務の手順書作成やわかりやすい図を
作成することへ活かすことができていると思います。

公務員として働き始めた当初は、大学時代の経験
と現在の業務はあまり関係がないと思っておりました
が、さまざまな場面で大学時代に学んだスキルを
活かすことができ、貴重な経験をしていただくと改めて
感じております。これからも充実した生活を送れる
よう精進していきたく思います。

随想

第二の故郷

鈴木 利佳子

平成31年人文学部卒

「会津より都会がいい。でも東京ほど人が多いとこ
ろは嫌だ。」

例えば、私の新潟ライフの始まりは、進路を考え
始めた時のコレがきっかけでした。



バイト仲間と小針の駅で

新潟大学を卒業して五年になりますが、いまでも新潟に行ったり、地名を聞いたりすると、学生時代のいろいろな思い出がよみがえります。万代に遊びに行くたびにハンバーガーを食べたなあとか、古町のパン屋さん少し高かったけどおもしろかったなあとか、小

針のバイト先の近くにあった〇亀製麺によく通ったなあとか、寺尾の和菓子屋さんのかき氷おいしかったなあとか、(まだまだ続きます) 燕市で背油ラーメンを食べておなか壊したなあとか、弥彦神社でシカと写真を撮ったなあとか、花火のあと満員電車が嫌で長岡―新潟間を新幹線でリッチに帰ったなあとか、新発田の友達が母校に某有名女優が来たと自慢してきたなあとか、寺泊でイカ焼きと海鮮丼を食べた後に見た夕日がきれいだったなあとか。

食べ物の話が多いのはさておき(笑)。

書き連ねるときりがありませんが、新潟のあちこちに思い出があります。ほどよく「都会」

で、豊かな自然と温かい人たちに囲まれて、そしてなによりおいしいものがたくさんある新潟の地で大学生活を送ることができて本当に楽しかったです。



新潟生活最後の晩餐は豪華な海鮮丼

いまでも事あることに新潟を訪れますが、あの頃から全く変わっていない懐かしさも、新しいお店ができ、ふと「令和」を感じる瞬間も両方心が躍ります。四年間という決して短くない時間、一番自由を楽しめる時間を過ごした新潟は、私にとって大事な大事な第二の故郷です。

随想

飲みニケーションが原点に

遠藤 佑

私が新潟大学法学部を卒業して、まもなく三年が経ちます。大学時代を振り返り、特に心に残っているのは、管弦楽団での活動です。演奏だけでなく、団の運営等の仕事を通して学んだことは現在も私の原点になっています。

新潟大学管弦楽団は、1927年に第一回演奏会を開催した新潟医科大学音楽部に端を発する伝統的な楽団です。そんな輝かしい沿革と実績を有する楽団に所属することとなった私は熱心に毎日何時間も練習：というわけではなく、団のすべての飲み会に参加するべく、熱心に居酒屋に通っていました。お酒そのものが好きということもありましたが、それ以上に人と話すことが好きで、当時120名ほどの団員を抱えていた管弦楽団では飲み相手に事欠かなかったのです。

私は大学三年生の時、東京公演の宿泊交通係のリーダーを務めていました。三年に一度開催される東京公演の会場は、いつもの新潟会場ではないため、宿泊交通係の仕事は、宿泊場所の確保や団員の交通手段の確保、楽器の運搬など多岐にわたりました。



最初は一人で準備を進めていましたが、準備が追いつかず、私の下に複数のチームを編成することになりました。このとき、人選を行うのが非常に容易だったことを覚えています。団員と幾度となく飲みニケーションを重ねた私は、団員の得意不得意などを詳細に把握していたからです。そして、東京公演当日もチームは効果を発揮してくれました。お互いできることでできないことを明確に共有し、一つの共通意識をもって全員が主体的に動くことができたからだと思います。当初一人で準備しようと思っていたことが馬鹿らしくなりましたし、私一人では思いつかないであろうアイデアもどんどん出てきました。

以上の経験から、私は人と人との関わりによって生まれる相乗効果を重視するようになりました。私一人でできることはたかが知れていますが、私にできないことができる多くの人たちと力を合わせながら社会に与えられるものはないか模索しています。

私が会津支部に参加させていただいたのも、普段はお会いすることができない方々とお話し、何かできないかと考えたからです。もちろん、お酒が好きなのもあります。

初めはどんな方がいらっしやるか不安でしたが、魅力的な方たちばかりで、いつも参加することを楽しみにしております。

未熟者ではありますが、今後とも何卒よろしくお願いたします。